グリーグ国際ピアノコンクール覇者が美竹サロンに初登場！
大地から湧き上がるような圧倒的な響き、
多彩な音色のグラデーションが描く厳かな美——

石井 楓子

ピアノリサイタル

Beethoven, Brahms, Grieg

2025年4月4日（金）
開場 18:30／開演 19:00

会員4,500円（座席指定可）／一般5,000円／学生2,500円（全席自由席）

Program

ブラームス
16のワルツ Op.39

ヴォルフガング・リーム(1952-2024)
《ブラームスの愛のワルツ》(1985年作)

グリーグ
抒情小曲集より
Op.43-1《蝶々》
Op.43-2《孤独なさすらい人》
Op.54-2《ノルウェー農民行進曲》
Op.57-6《郷愁》
Op.65-6《トロルドハウゲンの婚礼》

ベートーヴェン
ロンド・ア・カプリッチョ ト長調 Op.129
《失われた小銭への怒り》

ブラームス
ピアノ・ソナタ第1番 ハ長調 Op.1

8th ANNIVERSARY

123 Shibuya Mitake Salon (vol.174)

Shibuya Mitake Salon

●ご予約・お問い合わせ　株式会社ILA（渋谷美竹サロン）03-6452-6711（平日 10:00-18:00）、070-2168-8484（時間外可）Webサイト： https://x.gd/ZySck

石井 楓子

ピアノリサイタル

Beethoven, Brahms, Grieg

2025年4月4日（金）開場 18:30／開演 19:00

会員4,500円（座席指定可）／一般5,000円／学生2,500円（全席自由席）

Program

ブラームス
16のワルツ Op.39

ヴォルフガング・リーム(1952-2024)
《ブラームスの愛のワルツ》(1985年作)

グリーグ
抒情小曲集より
Op.43-1《蝶々》
Op.43-2《孤独なさすらい人》
Op.54-2《ノルウェー農民行進曲》
Op.57-6《郷愁》
Op.65-6《トロルドハウゲンの婚礼》

ベートーヴェン
ロンド・ア・カプリッチョ ト長調 Op.129
《失われた小銭への怒り》

ブラームス
ピアノ・ソナタ第1番 ハ長調 Op.1

8th ANNIVERSARY

123 Shibuya Mitake Salon (vol.174)

グリーグ国際ピアノコンクール覇者が美竹サロンに初登場！
大地から湧き上がるような圧倒的な響き、
多彩な音色のグラデーションが描く厳かな美——

石井楓子の演奏の凄さを一言で表すならば、「自然のエネルギーを自在に引き出し音に昇華するピアノ」といえるかも知れない。

作品が持つそれぞれの“カラー”を再現するためのエネルギーを自在に操り、地、水、火、風、土、空、雷、陰、陽—— 世に存在するさまざまなエネルギーを自身の内に感じ、それを音として外に顕現しようとしているのか…。

女性的でも男性的でもなく、神懸かり的な印象も感じられるが、ヒステリックさを感じさせることは一切ない独特の魅力がある。

その根底には、作曲家や作品・楽譜への深いリスペクトがあり、そこに内包されている情感をクリアに伝えようとしているアプローチが際立っている。

大地から湧き上がるような圧倒的な響き、引き締まった構成美、多彩なグラデーション、筋肉質でブレない芯、それらが醸し出す圧倒的な臨場感、スケール感の底知れぬ魅力と説得力には圧倒されてしまう。

そんな彼女は、2022年　第17回グリーグ国際ピアノコンクール優勝時の際にも、コンクールであることを感じさせないスケールの大きな演奏で一躍注目を集めていたが、メンタルの調和、強さ、安定感も際立っているのだろう。

彼女の演奏に初めて触れたのは、そのずっと前のYouTubeにアップされていた「ベートーヴェン ピアノソナタ第30番 Op.109」だった。

「若手ながら驚異的なベートーヴェン弾きがいる」と話題になっていたその演奏は、堅牢な構造を土台にしつつも、抒情性に溢れた見事な演奏であった。

深淵から湧き上がるような圧倒的なフォルテの迫力にも驚かされたが、ベートーヴェンの内省的な精神性を巧みに描き出していた。

まずは、彼女のドイツもの、特にベートーヴェンを、生演奏で間近に体験してみたい、クラシック音楽のファンであるならば、誰もがそう感じるだろう。

今回は「ロンド・ア・カプリッチョ ト長調 Op.129」通称《失われた小銭への怒り》という、ベートーヴェンのユニークさと演奏効果が際立つ作品が選曲されている。

また、現在の彼女には最適ではないかと感じられるブラームスの「16のワルツ Op.39」と「ピアノ・ソナタ第1番　ハ長調　Op.1」がセットされており、期待が高まる。

さらに、彼女を語る上で外せないグリーグの抒情小曲集も登場する。

自然のエネルギーを自在に操るような彼女のピアノが、この作品をどのように表現するのか、注目だ。

2024年4月号『ショパン』誌で彼女が語っていたように、留学先のバーゼル音楽院では、現代音楽への学びが盛んだったとのこと。

今回プログラムに含まれるヴォルフガング・リームの《ブラームスの愛のワルツ》は、そうした背景を反映しつつ、プログラム全体をさらに洗練させる一曲となっているといえるだろう。

2025年度、美竹サロンが8周年を迎える記念すべき年の幕開けにふさわしい石井楓子が挑む渾身のプログラムといえるのではないか。

（渋谷美竹サロン）

日本のトップクラスの若手演奏家が、
こだわり抜いた価値ある企画をお届けしていきます。
渋谷美竹サロン（美竹清花さろん）が追求する
“本物の音楽”は、演奏者と参加者とわたしたちの、
三位一体の努力と対話から生まれます。

渋谷駅 徒歩2分
宮益坂、
クラシック音楽サロン、
誕生。

大好評につき
サロン・メンバーズ
追加募集中！

Twitter　instagram　LINE

Shibuya Mitake Salon

●お問い合わせ
株式会社ILA 渋谷美竹サロン（美竹清花さろん）
東京都渋谷区渋谷1-12-8（〒150-0002）
☎ 03-6452-6711（平日 10:00-18:00）
070-2168-8484（時間外可）
Fax 03（3409）0188

公式Webサイト